

動物脱出防止対策演習 ～動物と人の安全のために～

参事 佐藤 佐十志

12月12日、全園挙げて「動物脱出防止対策演習」を実施しました。これは、動物園職員は飼育動物と人の命を預かるという使命の下、動物脱出時において、各自が役割分担を理解し、具体的な動きをイメージすることおよび速やか・的確な情報の伝達共有を目的に行ったものです。想定した事態は、オオカミが展示場扉の間隙から脱出し、園路を徘徊している設定で、逃走経路を遮断した後、動物舎出入口に追い込み、麻酔銃で捕獲するというものです。演習に先立ち、職員の集合配置場所・キャストイング、オオカミの追い込み方法などを周知しました。当日は、積雪の中、着ぐるみをまとった職員が演じる二足歩行のオオカミを捕獲チームが防御ネット、刺叉を巧みに操って目的の場所に誘導し、最後は、一発必中の緊張を背負いながら、狙撃手が麻酔銃で見事に矢的(イラストのオオカミ臀部)に命中させました。準備が良かったのか、シナリオよりスムーズに進み、脱出探知から捕獲まで20分ほどで終了しました。脱出オオカミの定点滞留、麻酔銃による捕

獲、職員全員出勤体制など現実とは少しかけ離れた点もありましたが、演習や訓練は、組織対応能力の限界点を見極め、いかに適確に事態を終息させるかの作業手順を検証し、災害対策実務に反映させる実効手段と考えられます。今回の演習では、捕獲に携わる職員の安全確保、入園者誘導などの課題が浮き彫りになりました。次回は、課題を組み入れながら、開園期間中の演習実施も視野に入れ、取り組む予定です。災害はいつ起こるかわかりません。職員の危機管理に対する意識高揚を図りながら、さらなる動物と人の安全管理体制の構築に努めていきたいと思ひます。



逃走経路の遮断・捕獲場所への追い込み



鎮静状況を確認
(左：的となったオオカミのイラスト)

イヌワシ繁殖検討委員会の開催について

飼育展示担当 三浦 匡哉

大森山動物園が加盟している公益社団法人日本動物園水族館協会では、希少動物の種の保存に力を入れています。希少動物の血統を管理し、遺伝的多様性を保持しつつ、繁殖に取り組んでいこうというものです。

ニホンイヌワシは、野生下では、北海道から九州にかけての全国に生息分布が確認されていて、個体数は約650羽と推定されています。繁殖成功率が低下傾向にあるため、将来的に個体数の急速な減少が危惧されています。一方、飼育下では、現在、8園で41羽飼育しています。

大森山動物園は、同協会のニホンイヌワシ種別調整園に指定され、繁殖計画を立てています。これは大森山だけで決めているわけではなく、繁殖検討委員会という会議を開き、検討委員と飼育下の現状と課題を確認し、その解決策について議論し、毎年計画を立てています。

今年は12月5日に大森山動物園で、この会議を開催しました。検討委員は、札幌市円山動物園、盛岡市動物公園、仙台市八木山動物公園、東京多摩動物公園、いしかわ動物園の職員です。当日は、事情により欠席した委員もいましたが、オブザーバーとして、環境省の自然保護官にも参加していただきました。

会議では、野生下のイヌワシのバックアップについて、動物園が期待されていることを改めて認識しました。様々



な課題がありますが、野生由来個体ペアの繁殖に全力で取り組む、飼育下個体の野生復帰を見据えた技術開発に取り組む等の点を確認しました。また、昨年、秋田と盛岡の間で行った有精卵の移動を、今年は秋田と石川の間で挑戦してみようということになりました。

飼育下のニホンイヌワシがバラエティに富み、野生下のバックアップとしての役割が十分果たせるよう、飼育園の協力を得て、計画を進めたいと考えています。



イベント レポート

秋の動物ふれあいフェスティバル

10月7日～8日

動物とのふれあいを楽しめる秋のイベント。大人気の「どうぶつパレード」は2日間開催しました。園路の脇を埋め尽くした来園者からは、動物が通るたびに歓声が上がりました。

今回は新しいイベントとして「大森山動物園クイズ王決定戦」を実施。動物の習性や当園で飼育している動物、個体に関する盛りだくさん内容の問題に、102名の参加者がクイズ王の座をかけて熱い勝負を繰り広げました。決勝に勝ち進んだ8名がさらなる難問に挑み、優勝者「動物園クイズ王」が決定しまし

た。参加者はクイズに奮闘しながらも楽しんでおり、クイズ終了後の楽しみ抽選会も大盛況でした。



いい夫婦の日特別イベント

11月23日

11月22日のいい夫婦の日にちなみ「いい夫婦の日特別イベント」を開催し、県内外から20組のご夫婦が参加されました。キリンやフクロウとの記念撮影やトナカイやゾウのエサやり体験など、普段目で見ることができない動物たちが間近で見られる内容で、どのご夫婦も終始笑顔が絶えませんでした。記念撮影では、キリンが後ろから参加者をびっくりさせる

場面もあり、動物が目の前でみせる茶目っ気あふれる一面に和まされていたようです。

当日は、途中雨が降る不安定な天気ではありましたが、2人で1本の傘を差して歩く姿も見られ、まさに「いい夫婦の日」となったようです。



さよなら感謝祭

12月2日

亡くなった動物の霊を慰めるとともに、動物園を訪れてくださったお客さまと動物園の立役者である動物たちに感謝の意を込めて毎年開催している「さよなら感謝祭」。

慰霊祭では、動物たちの遺影を飾った祭壇に出席者の代表がそれぞれ献花した他、追悼の言葉として浜田小学校代表者による作文が朗読され、今年亡くなったシンリンオオカミなど29種53頭の動物たちに感謝の気持ちをささげ冥福を祈りまし



た。また、感謝祭では浜田小学校児童による学習発表や演奏、ボランティアガイドさんによる紙芝居も披露されました。

この日はミルヴェンジャー7のステージショーや餅つき大会などたくさんのイベントが開催され、来園者は今年最後の動物園を満喫していました。

雪の動物園

1月5日～2月24日 土日祝日

雪の動物園が始まると、大森山動物園はこれまでの景色から一転して白一色の美しい景色へと変わります。動物たちが見せる表情も変わり、雪の中を元気に走り回る姿や身を寄せ合って寒さを凌ぐ様子が見られます。

今年は記録的な大雪で、開園時間直前まで除雪に追われる日々となりましたが、そんな中たくさんの方が来園してくださいました。

トナカイやポニーのお散歩タイムでは、動物が園内を歩き出すと周りには人が絶えないほどの人気ぶり。また、今年はヘビ年ということで「ミニ干支展」を開催。ヘビに関連した話をパネ



ルで紹介した他、ポアコンストリクターの食事風景の写真や、レントゲン写真、脱皮した皮なども展示しました。ヘビを描いた顔出しパネルでは、ヘビに巻かれたウサギに成り切って撮影している方もいたようです。

この他にも、フリーマガジン『どうぶつのくに』の写真家、田井基文(たいもとふみ)さんの写真展「KIDZOO(キッズー)」も開催。世界中の動物園や水族館で撮影した写真約70点が展示されました。

今後の予定

通常開園は3月16日(土)からスタート!



まってるよ～

2013年の通常開園は3月16日(土)から、12月1日(日)まで休まず開園します。たくさんのイベントを企画して皆さまのご来園をお待ちしています。

【開園時間】午前9時から午後4時30分まで(入園は午後4時まで)

【入園料】大人(高校生以上)700円、中学生以下無料、年間パスポート1,200円

※団体(大人20名様以上)500円、5名以上20名以下の団体様は回数券がおすすめです。

★大森山動物園は、2013年9月1日に40周年を迎えます。★

